

事後評価シート

コード	事務事業名	所管部課					
8-6-2	雨水浸透施設助成事業	都市整備部下水道課					
事務事業の概要	事務事業の目的 屋根に降った雨水を地下へ浸透させ、地下水のかん養及び潤いのあるまちづくりを進めることを目的とする。	事業の区分 <input type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input checked="" type="checkbox"/> その他の事務事業					
	実施内容、実施方法 各戸貯留・浸透施設を設置する者に対して、その経費の一部(一件につき上限20万円)を助成する。	根拠法令等 西東京市各戸貯留・浸透施設助成事業実施要綱					
	事業開始時期	平成7年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()			
評価指標の設定	活動指標名 浸透施設設置戸数	活動指標の考え方(定義) 助成制度により浸透施設を設置した戸数					
	成果指標名 1次 浸透施設設置戸数	成果指標の考え方(定義) 1次 1,900戸(市内想定軒数38,000戸の5%)					
	1次 浸透樹設置個数	1次					
	2次 総浸透量	2次					
事務事業データ		単位	15年度	16年度	17年度	18年度	
	事業費(A)		4,285	4,280	4,109	5,005	
	国庫支出金	千円					
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		4,285	4,280	4,109	5,005	
	所要人員(B)	人	0.4	0.4	0.4	0.4	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	3,309	3,331	3,274	3,274	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	7,594	7,611	7,383	8,279	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(浸透施設設置戸数)	千円	195	181	211	#DIV/0!	
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	戸			40	40
		実績値	戸	39	42	35	
活動指標	目標値						
	実績値						
1次成果指標	目標値	戸			442	482	
	実績値	戸	360	402	437		
1次成果指標	目標値	個			130	130	
	実績値	個	1,138	1,268	1,395		
2次成果指標	目標値	m ³			33	33	
	実績値	m ³	283	316	348		
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)						
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	他市の助成割合調査を計画中。					
	運営上の制約条件・外部要因等	市報等でPRを実施し、施設の設置協力をお願いしているが関心が薄い。同じ関東ローム層でも、地域により浸透能力の差が生じるため、効果が認められない場合がある。					

コード 8-6-2	事務事業名 雨水浸透施設助成事業	所管部課 都市整備部下水道課
--------------	---------------------	-------------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	目的の妥当性 4 上位施策と目的が合致しており、施策に対する貢献度は他の事業と同程度である	▼	地下水への涵養による潤いのあるまちづくりを目指す。
	目標の妥当性 2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	
	緊急性 4 今後しばらくの間、少しずつでも継続して実施する必要がある	▼	
2 市の必要性	法的義務性 2 法律・条例での規定はないが、通達や要綱・要領で実施が規定されている	▼	要綱に基づき実施。
	必要性 2 豊かな市民生活の形成に寄与するサービスである	▼	
	民間との役割分担 5 他に同種・類似サービスを提供している主体(民間・公共問わず)は確認されていない	▼	
3 内容の適切さ	ニーズ 2 市民(庁内)ニーズが推測でき、推測に見合ったサービスであることを説明できる	▼	毎年度市報・HPにより市民周知し申出を受けている。
	規模・方法の妥当性 1 事業規模や方法は過去を踏襲しており、特に見直していない	▼	
	公平性 5 直接の対象は、すべての市民または団体である	▼	
4 実施手段の適切さ	有効性 2 現在、質・水準の改善に取り組んでいるが、成果の向上はあまり期待できない	▼	市民意識の高揚と自然環境への配慮などにより効果が期待できる。
	効率性 1 具体的な計画や目標等に基づいたコスト低減には特に取り組んでいない	▼	
	独自性 5 国・都及び庁内には同種の目的を有する他の事務事業はない	▼	
合計		35	

	評価結果	判断理由、説明等
総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	異常気象による局所的な集中豪雨や台風の通過など、雨水の地下涵養は大きな役割を担っている。このため、市民自らの意識を高めと共に、ヒートアイランド現象の抑制に寄与する。

18年度における改善点	本事業への市民意識の高揚を図る。 他市の状況を参考に助成割合を検討する。
-------------	---

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	本事業を実施することによる効果や成果が見極められるような仕組みづくりに取り組む必要がある。 相当の成果を見込める場合は、設置戸数の増加をめざし、PRに努める必要がある。 また、助成割合についても他市の状況を勘案し、検討する必要がある。
------	---	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	設置目標数を定め継続的に設置しているが、事務事業の目的への貢献が高まるよう取り組まれない。また、開発指導等の全体的な浸透対策の中で、当該事業の成果・効果を分かりやすく示せるような工夫も必要である。
--------	---	--